

IAIS 市中協議文書「気候リスク監督ガイダンス (ICP ガイダンス・支援文書)」に意見提出

日本損害保険協会(会長:新納 啓介)は、保険監督者国際機構(IAIS)が2024年3月19日から6月19日にかけて市中協議に付した「気候リスク監督ガイダンス(ICPガイダンス・支援文書)」に対する意見を提出しました。当該意見は、添付1をご参照ください。

1. 市中協議の概要

- ・ 気候関連リスク監督の国際的に一貫したアプローチを推進し、保険監督の国際的な枠組みにおけるギャップに対処するために、IAIS では、様々な保険基本原則(ICP)(※1)に関連するガイダンスの限定的な変更案および新たな支援文書について、計4回にわたり市中協議を実施している。
- ・ 第3弾となる今回の市中協議は、以下を対象としている。
 - ICP ガイダンス文書(監督当局が ICP 15(投資)、16(ソルベンシー目的の ERM) における気候関連要素を 考慮することを支援するための、追加文言案を含む)
 - 支援文書(2021 年に採択された、保険セクターにおける気候関連リスク監督に係るアプリケーション・ペーパー(AP)(※2)の改定案(ICP 7(コーポレートガバナンス)、8(リスク管理および内部統制)、15、16に関連する箇所)および ICP 14(評価)に関する新規文言案を含む)

2. **損保協会意見(抜粋)**(詳細は添付1ご参照)

- ・ (ICP 15 ガイダンス文書) リスクの定量化のみを強調するのではなく、定量的、定性的シナリオ分析の重要性に触れている点に同意する。一方で、定量情報の重要性は否定しないが、特定のモデルにより得られる定量情報を過信することにもリスクがあり、また気候変動に関するデータ精度にも課題があるため、あくまでも1つの情報として取り扱うことが望ましいと考える。
- ・ (ICP 16 支援文書)気候変動リスクは重要なリスクであり、ORSAにて考慮されるべきである。シナリオ分析のORSAへの反映については、例えば、より長い期間での評価、より多様なリスク(物理的・移行・訴訟リスク)の分析といった、想定される技術的な困難さも十分考慮すべきである。

当協会は、IAIS における国際保険監督基準策定の議論に積極的に参加しており、今後も市中協議等に際して本邦業界の意見を表明していきます。

(※1)保険基本原則(ICP)

保険セクターの健全性を促進し、適切に保険契約者を保護するために必要な保険監督にあたっての基本原則などを定めた、IAISの監督文書であり、あらゆる保険グループおよび保険会社を対象としている。

(※2)アプリケーション・ペーパー

IAIS の監督文書(ICP、ComFrame 等)の特定のテーマに関して、原則や基準の一律な解釈や適用が難しい場合に、事例やケーススタディの提供を目的に作成される文書。助言や具体例、推奨、事例などを含む。



保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意見

番号		損保協会意見(和文)	損保協会意見(英文)
ICP15	(投資) ガイダンスマテリ	アル	
2	ICP ガイダンス 15.2.3	・社内管理上の格付の調整を行うかどうかは、引き続き検	We agree that continued consideration should be given as to
	の変更案に対するコメ	討が必要であることは同意できる。一方で、気候リスクを	whether to adjust external credit ratings for internal management
	ント	信用リスク格付に反映させるメソッドは困難であり、"ど	purposes. On the other hand, the method of reflecting climate-
		の程度格付に織り込まれているか"の分析は情報に限りの	related risks in credit risk ratings comes with difficulty, and in
		ある保険会社側では実務上大変困難であり、格付会社側の	practice, it is very challenging for insurers, which have limited
		開示があるべきと考える。	information, to analyze "the extent to which various external risks
		・さまざまな外部リスクがどの程度織り込まれているかを	(such as climate change) have been factored into the ratings".
		検討した結果は、格付の調整というよりは投資判断の調整	Therefore, we believe that rating agencies should disclose the
		に用いるのが適当と考える。	results of their analysis.
			In addition, it is appropriate to use such results to adjust
			investment decisions rather than to adjust ratings.
3	新しい ICP ガイダンス	・気候関連リスクのみに絞って具体的に追記することには	It is not appropriate to specifically add a description focusing only
	15.2.6 に対するコメン	違和感があり、記載内容も細かすぎると考えられる。その	on climate-related risks, and the description is considered too
	٢	ため、追記部分は削除し、supporting material に記載すべ	detailed. Therefore, the additional description should be deleted
		きである。	here, but included in the supporting material.
4	ICP ガイダンス 15.3.1	・バランスシートの貸借に逆方向の影響を与える金利リス	Unlike interest rate and foreign exchange risks, which affect
	の変更案に対するコメ	クや為替リスクと異なり、気候変動リスクについては貸借	balance sheet lending and borrowing in opposite directions,
	ント	に同方向の影響を与える場合もある(気候変動リスクの発	climate-related risks may affect lending and borrowing in the same
		現は、資産側においては価格下落に寄与し、負債側におい	direction. (Since the manifestation of climate-related risks
		ては保険金支払増加に繋がるので、資産と負債の影響額が	contributes to lower prices on the asset side and leads to higher
		相殺されず、資産と負債の両方で損失が発生する場合があ	insurance payments on the liability side, the impact on assets and
		る)。 ALM と関連付けて気候変動リスク管理を行うことは	liabilities may not offset each other, resulting in losses on both
		相当に困難を伴うことが見込まれるため、同管理を行うこ	sides.) Since climate related risk management in conjunction with
		との有効性については検討が必要と考える。	ALM is expected to entail considerable difficulties, we believe that
			its effectiveness needs to be examined.



保険監督者国際機構 (IAIS)「気候リスク監督ガイダンス (ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意見

		747人正日日口(777)	日が「シート」(「ローバー)」「人人人人日)」「「人)」「人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人
5	ICP ガイダンス 15.4.1	・定量化のみを強調するのではなく、定量的、定性的シナ	The guidance does not emphasize quantification only, but rather
	の変更案に対するコメ	リオ分析の重要性に触れている点に同意する。一方で、定	mentions the importance of quantitative or qualitative scenario
	ント	量情報の重要性は否定しないが、特定のモデルにより得ら	analysis. We agree with this point. On the other hand, while we do
		れる定量情報を過信することにもリスクがあり、また気候	not deny the importance of quantitative information, we believe
		変動に関するデータ精度も課題があるため、あくまでも 1	that there may be a risk of overconfidence in quantitative
		つの情報として取り扱うことが望ましいと考える。	information obtained by a particular model. Plus, given that there
			are challenges with climate change data accuracy, such
			information should be treated as one of various information
			elements.
6	ICP ガイダンス 15.4.2	・短期・中期・長期はどのくらいのスパンを想定している	As for each of the "varying time horizons (short, medium and long-
	の変更案に対するコメ	か。ここが各社で異なると、保険会社ごとの評価が変わる	term)", what time span is assumed? If this differs from company to
	ント	のではないか。	company, the assessment of each insurer may differ.
ICP16	(ソルベンシー目的の ERI	M)ガイダンスマテリアル	
11	ICP ガイダンス 16.2.10	・気候関連シナリオ分析は、保険セクターのリスクの把握	While climate-related scenario analysis has great potential to be
	の変更案に対するコメ	に役立つ可能性は大きいと考えるが、比較的新しい分析方	useful in understanding risks in the insurance sector, it is a
	ント	法であり、保険監督への導入や保険会社の具体的な意思決	relatively new analysis method. Therefore, the methodology and
		定(保険引受や投資等)への活用、および分析結果の対外	data to be used have not yet been fully established nor developed
		開示に向けては、手法や使用するデータが未だ十分には確	for insurance supervision purposes, nor used in specific decision
		立・整備されていないと理解している。今後、各国当局や	making by insurers (e.g., underwriting and investment). In addition,
		保険会社間で試行錯誤(exploring exercise)を行いなが	public disclosure of results have not been made. It is necessary to
		ら精錬していく必要があると考える。	refine the method by exploring exercises among jurisdictional
		・『他の状況では比較的単純な計算が適切な場合もあ	authorities and insurers.
		る。』の比較的単純な、とはどのようなケースを想定して	What cases are assumed in which "relatively simple calculations
		いるのか。	may be appropriate"?
12	ICP ガイダンス 16.2.16	・Climate Related Risk の文脈においても、リスクが容易	We agree that, in the context of climate-related risks, qualitative
	の変更案に対するコメ	に定量化できない場合には定性的なアセスメントも活用す	assessments should also be used when risks cannot be easily
	ント	べきであるという意見に同意する。	quantified.





		保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意見		
13	ICP ガイダンス 16.2.19	短期・中期・長期はどのくらいのスパンを想定している	As for each of the "varying time horizons (short, medium and long-	
	の変更案に対するコメ	か。ここが各社で異なると、保険会社ごとの評価が変わる	term)", what time span is assumed? If this differs from company to	
	ント	のではないか。また、気候変動に関連するリスクの変化の	company, the assessment of each insurer may differ. In addition, it	
		影響調査をどの程度の頻度で実施すれば良いのか非常に難	is very difficult to determine the frequency of assessing the impact	
		しいと考えるが、この点は各社で判断するものという認識	of changes in climate-related risks. We recognize that this is a	
		でいる。	matter for each company to determine.	
14	ICP ガイダンス 16.6.6	・気候関連リスクのみに絞って具体的に追記することには	It is not appropriate to specifically add a note focusing only on	
	の変更案に対するコメ	違和感がある。また、集中リスクや ALM、流動性につい	climate-related risks.	
	ント	ては「場合がある」、「可能性がある」となっているな	In addition, while "may" is used for concentration risk, ALM, and	
		か、追記部分は過度に規範的な内容となっていることにも	liquidity, it is also incongruous that the added text is overly	
		違和感がある。そのため、追記部分は削除し、規範的では	normative. Therefore, the additional information should be deleted	
		ない表現に修正したうえで supporting material に記載すべ	and a revised sentence with less normative wording should be	
		きである。	included in the supporting material.	
		その前提のもと、以下のとおり意見を提出する。	Based on this premise, we submit the following comments.	
		・16.6.6 に投資戦略に関する記載として「気候関連リスク	The last sentence of Paragraph 16.6.6:	
		に関して、保険会社は、(投資ポートフォリオの満期プロ	The supervisor should only require the insurer to consider climate-	
		ファイルの範囲内ではあるが)長期的なタイムホライズ	related risks in its investment strategy, if climate-related risks are	
		ン、重大な気候関連リスクが投資に与える影響、投資が気	of particular importance to the insurer in question.	
		候に与える影響、関連する場合には、サステナビリティに	While "their customers' known preferences in relation to	
		関する顧客の既知の選好などを考慮すべきである。」とあ	sustainability considerations" is included in the last sentence as a	
		るが、監督当局が保険会社に対して投資戦略において気候	factor to be considered by insurers, customers' preferences vary	
		関連リスクについて考慮することを求めるのは、当該保険	among markets and there will be jurisdictions where such	
		会社にとって気候関連リスクが特に重要なリスクである場	preferences in relation to sustainability considerations do not exist.	
		合に限るべきである。	Therefore, we suggest not including this part in the supporting	
		・保険会社が考慮すべき点として、"their customers'	material.	
		known preferences in relation to sustainability	However, if the sentence is to remain in the supporting material or	
		considerations"が挙げられているが、customers'	the guidance material, we suggest revising the last part by, for	



		保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意	
		preferences はマーケットによって大きく異なっており、	example, beginning it with "If climate-related risks are material,
		sustainability に対する preference があまりない法域もあ	insurers" or replacing "should" with "may".
		るのではないかと考えられる。そのため、追記部分を	It would be desirable to make the description more limited, for
		supporting material に記載する際に当該部分は削除するよ	example, by adding "where relevant, such as cases when insurers
		うに提案するが、仮に supporting material あるいはガイダ	are entrusted with investment management by their customers"
		ンスに残す場合でも、冒頭を「気候関連リスクが重要なリ	because it is difficult to imagine who the "customers" of
		スクである場合には、保険会社は…」としたり、語尾を	"customers' known preferences in relation to sustainability
		「考慮することが考えられる。」のように修正すべきであ	considerations" are.
		る。その際、「サステナビリティに関する顧客の選好」の	
		「顧客」が誰なのか、保険会社の場合はイメージしづらい	
		ことから「顧客より運用を受託しているなど、関連する場	
		合は」等、もう少し限定的な記載とするのが望ましいと考	
		える。	
15	ICP ガイダンス 16.12.9	・ORSA で検討する外部要因は様々なものがあり、保険	There are various external factors to be considered in ORSA, and
	の変更案に対するコメ	会社のリスク特性に応じて検討するものと考えているが、	we believe that they should be considered according to the risk
	ント	気候変動リスクのみ期間を区分したエクスポージャーの検	characteristics of the insurer. However, it is too prescriptive (even
		討を例示するのは、例示としても prescriptive (規範的)	as an example) to describe, only for climate-related risks, a
		すぎる。	consideration of the insurer's exposure for different time horizons.
ICP7	(コーポレートガバナンス)	支援文書	
18	セクション 3.3(取締役	・パラグラフ 32:取締役、取締役会のケイパビリティに	While Paragraph 32 deals with the capability of directors and the
	会の役割)の変更案に	ついて記載されているが、"demonstrate"とは具体的にど	board of directors, what exactly is envisioned by the word
	対するコメント	のような対応を想定しているのか。"demonstrate"するこ	"demonstrate"? It is very difficult to "demonstrate". If a scientific
		とは非常に難しく、科学的根拠を求めるならば運用は極め	basis is sought, it would be extremely challenging to implement.
		て困難だと考えられる。負荷の観点から、保険会社に新た	From the perspective of insurer burden, we would like to confirm
		な対応を求めるものではないことを確認したい。	that they are not required to take new measures.



保険監督者国際機構(IAIS)「気候リスク監督ガイダンス(ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意見

19	セクション 3.5(報酬に
	関する義務)の変更案
	に対するコメント

- ・非財務的基準は財務的基準に比べて尺度の設定が難し く、変動報酬が恣意的に運営される懸念もあると考えられ る。
- ・39 パラにおいて以下の記述があるが、気候関連リスク は報酬取り決めの 1 要素に過ぎないと考えられるため、 should ではなく can にすべきである。

"Moreover, if insurers include information about remuneration in public disclosures and supervisory reporting, then these should contain a clear description of how remuneration arrangements (including any variable components) take into account the risk management strategy for climate-related risks."

Non-financial criteria are more difficult to measure than financial criteria, and there is concern that variable remuneration may be administered in an arbitrary manner.

Paragraph 39: Since climate-related risks are considered only one element of remuneration arrangements, we suggest replacing "should" with "can".

ICP8(リスク管理と内部統制)支援文書

21 セクション 4.1 (気候変 動リスクをリスク管理 システムの適用範囲へ の組み込み)の変更案 に対するコメント

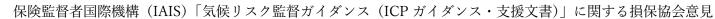
- ・気候リスクについて統合的なアプローチ自体が確立されていないため、投資戦略やビジネスモデルが資産・負債に 与える影響を検討すること自体に困難が伴うと考える。
- ・パラグラフ 44: 「保険会社は信頼できる量的・質的データを収集するためのツールを開発すべき」との記載があるが、各保険会社が独自にツールを開発することは困難である。また、保険会社の分析結果の一貫性や比較可能性を一定程度確保することが望ましいが、その観点からは、標準手法や共通モデルを作成し提示いただきたい。
- ・パラグラフ 49: 「将来を見据えた評価」については具体的な評価方法を提示していただきたい。

Since an integrated approach has not been established for climate-related risks, we believe that examining the impact of investment strategies and business models on assets and liabilities is fraught with difficulties.

While Paragraph 44 notes that "...insurers should develop tools to collect reliable quantitative and qualitative data", it is difficult for each insurer to develop its own tools. In addition, it is desirable to ensure a certain degree of consistency and comparability of analytical results among insurers. From this perspective, standard methods and common models should be developed and presented.

With regard to Paragraph 49 "forward-looking assessments", specific methods should be presented.

ICP14(評価)支援文書

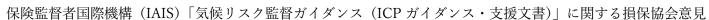


<u>50</u>	NPC
00	次立事

23	資産評価のセクション	・気候変動が資産の評価に影響を与える「可能性がある」	While we do not dispute that climate risk "has the potential" to
	に対するコメント	ことに異論はないが、投資行動やビジネスモデルにそのリ	affect the valuation of assets, we believe that quantitative impact
		スクを考慮するには、定量的な影響分析が必要であり、そ	analysis is needed to consider climate risk in investment behavior
		れが整うまでの間の対応は困難と考える。	and business models. Until that is in place, it will be difficult to
		・パラグラフ 3:「ICP14 は、より広範なリスクを対象と	respond sufficiently.
		しているため、気候リスクが具体的に評価のドライバーに	While Paragraph 3 explains that "As the ICPs address risks more
		どのような影響を与え得るか、また、保険会社は評価にお	broadly, ICP 14 does not directly discuss how climate risk
		いてドライバーへの影響をどのように考慮すべきかについ	specifically could impact the drivers of valuation and how insurers
		ては、直接的には論じていない。」とあるが、気候リスク	should consider the impact on those drivers in valuation", we
		の資産への影響の評価手法について具体的な事例等があれ	would appreciate it if the IAIS could provide some specific
		ばお示しいただきたい。パラグラフ 14 にあるように現時	examples of methods for assessing the impact of climate risk on
		点では気候リスクの資産への影響に関する見積りは難しい	assets. As mentioned in Paragraph 14, it is difficult to estimate the
		と思われるが、好事例があれば監督当局・保険会社双方に	impact of climate risk on assets at this time, but if there are good
		とって有用と考える。	practices, it would be useful for both supervisors and insurers.
24	評価の種類への影響の	・この項で記載される「信頼性のある」評価が現時点では	The "reliable" valuation described in this section has not been
	セクションに対するコ	確立されていないと考えるが、監督者として同意するか。	established at this time. We would like to confirm that the
	メント		supervisor agrees with this.
25	投資のタイムホライズ	・長期的な負債を持つ保険会社の場合、デュレーションの	For insurers with long-term liabilities, having assets with long
	ンのセクションに対す	長い資産を持つことが ALM 上好ましい一方、評価の難し	durations is preferable from an ALM perspective. However,
	るコメント	い気候リスクを長期のタイムホライズンで考慮することが	climate-related risks, which are difficult to assess, are hard to
		難しいため、ALM を考慮したコントロールと相反する場	consider in a long-term time horizon. This may conflict with ALM-
		合が考えられる。	oriented controls.
26	負債の評価のセクショ	・パラグラフ 22:「後者については、経済シナリオ・ジ	As for "Regarding the latter, economic scenario generators should
	ンに対するコメント	ェネレーターを現在の市場価格に較正すべきである。」	be calibrated to current market prices" in Paragraph 22,
		は、経済シナリオ・ジェネレーターを利用しない手法も考	approaches exist that do not employ economic scenario
		えられるため、「後者については、経済シナリオの予測を	generators. Therefore, we suggest revising the sentence as
		最新の市場価格に較正すべきである。」としてはどうか。	follows:
	-		



			"Regarding the latter, predictions based on economic scenarios
			should be calibrated to current market prices".
ICP15	(投資)支援文書		
28	投資要件における気候	・財務的リスクに比較して、気候リスクが顕在化する可能	Given that, compared to financial risks, the likelihood of climate-
	変動要因のセクション	性はより不確実性が高いと考えられる中で、投資戦略に気	related risks materializing is considered more uncertain, it is
	に対するコメント	候リスクを財務リスクと同程度に織り込むことで、かえっ	necessary to be aware of the risk that incorporating climate-related
		て非合理な投資判断につながるリスクについても留意する	risks into investment strategies to the same extent as financial
		必要がある。	risks may lead to irrational investment decisions.
		・パラグラフ3:「気候変動から生じる財務リスクのモニ	Paragraph 3 (the last sentence):
		タリング」について、具体的な手法を例示していただきた	- Please provide examples of specific methods for
		ιν _°	"monitoringthe financial risks arising from climate change".
		・パラグラフ3:「気候変動から生じる財務リスクのモニ	- While we have no objection to this sentence in principle, we
		タリングと対応、気候変動に強い経済への移行への対応に	suggest noting that, for assets managed by third-party managers,
		ついては、保険会社が直接投資するか、第三者の資産運用	monitoring and responding to climate-related risks may be difficult
		会社や投資アドバイザーを通じて投資するかを問わず、保	or limited due to restrictions on available information, requests
		険会社の戦略の一部として行うべきである。」とあり、大	from insurers (investors) to change their portfolio composition, etc.
		枠としては異論はないが、外部委託運用資産については、	- We would like to confirm that "responding to the transition to a
		入手可能な情報や保険会社(投資家)からのポートフォリオ	climate-resilient economy" means "responding to risks related to
		構成の変更要請等に制約があるため、気候変動に関するリ	the transition to a climate-resilient economy".
		スクのモニタリングや対応が困難あるいは限界がある旨を	
		注記いただきたい。	
		・パラグラフ3:の「気候変動に強い経済への移行への対	
		応」は、「気候変動に強い経済への移行リスクへの対応」	
		と同義か確認いただきたい。	
29	ポートフォリオ全体の	・保険会社のステークホルダーの選好が保険会社の財務リ	While it is undeniable that stakeholder preferences may affect an
	資産運用のセクション	スクに影響する可能性があることは否定できないものの、	insurer's financial risks, it is difficult to consider it as equal to credit
	に対するコメント	信用リスクや市場リスクと同列で考慮することは難しい。	and market risks. In addition, insurers should not be required to



SO	NE	20

		目ガイグラグ(ICF ガイグラグ・又仮入音)」に関する損休励云息兄 「
	また、格付の妥当性チェックを保険会社に課すべきではな	check the appropriateness of credit ratings. Rather, we believe
	く、自社の投資アペタイトに照らして当該投資が妥当であ	that carrying out plausibility checks on such investments in light of
	るかをチェックするというのが正しいと判断する。	their own investment appetite is the right response.
	・パラグラフ5において、トランジションファイナンスに	Paragraph 5: A description about transition finance should be
	関する記述も追記すべきである。トランジションファイナ	added, as transition finance can influence the activities of
	ンスによって投資先の活動に影響を与えることができると	investees.
	考える。	
ALM のセクションに対	・長期的な負債を持つ保険会社の場合、デュレーションの	For insurers with long-term liabilities, having assets with long
するコメント	長い資産を持つことが ALM 上好ましい一方、評価の難し	durations is preferable from an ALM perspective. However,
	い気候リスクを長期のタイムホライズンで考慮することが	climate-related risks, which are difficult to assess, are hard to
	難しいため、ALM を考慮したコントロールと相反する場	consider in a long-term time horizon. This may conflict with ALM-
	合が考えられる。	oriented controls.
投資のリスク評価およ	・投資における気候リスクについてまだ十分な情報が得づ	It is important to note that enforcing climate-related risk
びリスク管理のセクシ	らい状況下で気候関連リスクの管理を強行すると、恣意的	management in a situation where sufficient information about
ョンに対するコメント	な判断を生じさせる可能性があり、これは監督当局にとっ	climate-related risks in investments is still difficult to obtain may
	ても望ましくない状況を引き起こす可能性がある点に留意	give rise to arbitrary decisions, which may create an undesirable
	が必要と考える。	situation for supervisors.
(ソルベンシー目的の ERM	析)支援文書	
リスクの特定と測定の	・パラグラフ4:「気候関連リスクは、ユニークな課題で	Paragraph 4 notes that "Climate-related risks present unique
セクションに対するコ	あり、財務リスク管理への戦略的アプローチを必要とす	challenges and require a strategic approach to financial risk
メント	る。気候リスクは、…不確実だが予見可能である:	management. Climate-related risks areUncertain but
	(Uncertain but foreseeable)」とあるが、GHG 濃度が増加	foreseeable". However, it is difficult to foresee climate-related risks
	すれば温暖化に繋がるといった気候に関する大きな傾向に	(as stated in "Dependent on short-term actions"), although it is to
	ついては科学的に一定予見可能だが、気候リスクについて	some extent possible to foresee major climate-related trends such
	は、後段の「•短期的な行動に左右される」にもあるとお	as an increase in GHG concentrations leading to global warming.
	り予見することは困難であるため、「だが予見可能(but	Therefore, we suggest replacing "but foreseeable" with "but
		inevitable".
	するコメント 投資のリスク評価およ びリスク管理のセクシ ョンに対するコメント (ソルベンシー目的の ERM リスクの特定と測定の セクションに対するコ	また、格付の妥当性チェックを保険会社に課すべきではなく、自社の投資アペタイトに照らして当該投資が妥当であるかをチェックするというのが正しいと判断する。 ・パラグラフ5において、トランジションファイナンスに関する記述も追記すべきである。トランジションファイナンスによって投資先の活動に影響を与えることができると考える。 ALM のセクションに対するコメント ・長期的な負債を持つ保険会社の場合、デュレーションの長い資産を持つことが ALM 上好ましい一方、評価の難しい気候リスクを長期のタイムホライズンで考慮することが難しいため、ALMを考慮したコントロールと相反する場合が考えられる。 ・投資における気候リスクについてまだ十分な情報が得づらい状況下で気候関連リスクの管理を強行すると、恣意的な判断を生じさせる可能性があり、これは監督当局にとっても望ましくない状況を引き起こす可能性がある点に留意が必要と考える。 (ソルベンシー目的の ERM) 支援文書 ・パラグラフ4:「気候関連リスクは、ユニークな課題であり、財務リスク管理への戦略的アプローチを必要とする。気候リスクは、…不確実だが予見可能である:(Uncertain but foreseeable)」とあるが、GHG 濃度が増加すれば温暖化に繋がるといった気候に関する大きな傾向については科学的に一定予見可能だが、気候リスクについては、後段の「・短期的な行動に左右される」にもあるとお



保険監督者国際機構 (IAIS)「気候リスク監督ガイダンス (ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意見

			自ガイグング(ICI ガイグング 文版大百)」に関する頂体励去忘光
		foreseeable)」は削除し、"Uncertain but inevitable"に修文	
		することを提案する。	
36	リスクアペタイトとリ	・気候変動に起因するリスクは他のリスクと比較して長期	Since risks attributable to climate change have a longer-term
	スクリミットのセクシ	的な影響となるため、リスク選好方針で同じリスクカテゴ	impact than other risks, even when a risk appetite statement deals
	ョンに対するコメント	リを扱う場合でも記載が複雑になることが予想される。ま	with the same risk categories, it can be assumed that the
		た、リスク選好は、事業ポートフォリオ全体に含まれる	description will be more complex. It should also be noted that risk
		様々なリスクを考慮して決定されるものであり、気候リス	appetite is determined by considering various risks in the overall
		クに関するシナリオ分析結果をもってリスク選好方針の判	business portfolio, and it is not always feasible to use the results of
		定に用いることは必ずしも実行可能とは限らないことにも	climate risk scenario analysis for assessment in a risk appetite
		留意が必要である。such as 以下の記載は考慮されうる要	statement. We would like to confirm that the bullet points following
		素を例示したものであり、用いるべきという意味ではない	"such as" are intended to illustrate elements that could be
		ことを確認したい。	considered, rather than to clarify elements that should be
		・資産運用において、移行リスクが既存カテゴリーのリス	captured.
		クを増大させる可能性の潜在的影響を評価することは重要	While it is important to assess, as part of asset management, the
		であるものの、確立された手法はなく、発展途上と言え	potential impact of transition risk on existing risk categories, the
		る。シナリオ分析による影響把握は有益ではあるが、実際	relevant methodology has not been established; it is still under
		には投資先の取組進展による機会(技術革新や脱炭素経営	development. While it is useful to understand impact through
		計画等)によってオフセットされる側面もあり、シナリオ	scenario analysis, in reality there are aspects that can be offset by
		分析の結果をもって意思決定を行うことは現実的ではな	opportunities due to the progress of investee companies' initiatives
		い。加えて、同セクター内においても個別企業による取組	(e.g., technological innovation, decarbonization management
		の差異もあることから、シナリオ分析結果をもって特定セ	plans, etc.), making it impractical to make decisions based solely
		クターに投資制限をつけることや投資の意思決定を行うこ	on the results of scenario analysis. In addition, given the
		とは考えにくく、統合的な判断となる。リスクポリシーを	differences in initiatives among individual companies within a
		検討する際は、これらの点も考慮されるという認識で良い	sector, it is unlikely that investment restrictions or investment
		か。	decisions in a particular sector can be made based on the results
			of scenario analysis. Rather, such decisions are made taking into
			account different factors in an integrated manner. We would like to



保険監督者国際機構 (IAIS)「気候リスク監督ガイダンス (ICP ガイダンス・支援文書)」に関する損保協会意見

			confirm that the proposed supporting material indicates
			consideration of these points when examining risk policy.
37	ALM のセクションに対	・長期的な負債を持つ保険会社の場合、デュレーションの	For insurers with long-term liabilities, having assets with long
	するコメント	長い資産を持つことが ALM 上好ましい一方、評価の難し	durations is preferable from an ALM perspective. However,
		い気候リスクを長期のタイムホライズンで考慮することが	climate-related risks, which are difficult to assess, are hard to
		難しいため、ALM を考慮したコントロールと相反する場	consider in a long-term time horizon. This may conflict with ALM-
		合が考えられる。	oriented controls.
38	投資方針のセクション	・財務的リスクに比較して、気候リスクが顕在化する可能	Given that, compared to financial risks, the likelihood of climate-
	に対するコメント	性はより不確実性が高いと考えられる中で、投資戦略に気	related risks materializing is considered more uncertain, it is
		候リスクを財務リスクと同程度に織り込むことで、かえっ	necessary to be aware of the risk that incorporating climate-related
		て非合理な投資判断につながるリスクについても留意する	risks into investment strategies to the same extent as financial
		必要がある。	risks may lead to irrational investment decisions.
39	ORSA のセクションに	・気候変動リスクは保険会社にとって重要なリスクであ	Climate change risks are important to insurers and should be
	対するコメント	り、ORSA にて考慮されるべきである。シナリオ分析の	considered in the ORSA. Technical difficulties, such as evaluation
		ORSA への反映については、例えば、より長い期間での	with longer time horizons and analysis of more diverse risks
		評価、また、より多様なリスク(物理的リスク、移行リス	(physical risks, transition risks, and litigation risks), are expected in
		ク、訴訟リスク)の分析など、技術的な困難さを伴うこと	incorporating scenario analysis in the ORSA. These should be
		が想定される。ORSA へのシナリオ分析の組み入れにつ	fully taken into account. From this perspective, we agree with the
		いては、このような技術的な難しさも十分考慮すべきであ	last sentence of Paragraph 17 ("Insurers may consider").
		る。その意味で、パラグラフ 17 の最後段の文章	With regard to the third bullet point in Paragraph 19, we would like
		("Insurers may consider")に賛同する。	to confirm that it is intended to be only "illustrative" at this point, as
		・パラグラフ 19 の例示の 3 点目について、法域ごとの法	the likelihood and impact of liability risks vary greatly depending on
		制度により訴訟リスクの発現可能性や影響は大きく異なる	the legal system of each jurisdiction, plus the feasibility of the
		こと、また、過去事例がない法域では分析のフィージビリ	analysis is not sufficient in jurisdictions where past cases do not
		ティにかけることから、現時点では「例示」にとどまると	exist.
		いうことを確認したい。	